

クラスワイド(学級単位)のポジティブな行動支援 実践研究報告

**小学校中学年の児童たちが、
「聞き方名人」になるための取組。**

学年の児童の実態

- 状況に関係なく，すぐ発言する。
- 活動に取りかかるまでに時間がかかる。
- 教員の話を手静かに聞く児童が少ない。
- 学習面の個別支援が必要な児童が数名在籍している。

教員の考え

- 人の話を良く聞き，自分の考えを深めてほしい。



アドバイザーからの助言

- 児童の不安感が高い。
- 高学年へ向けて
自分たちでやる，助け合う力を育てる。
- 学級のルールを明確にする。
- よい聞き方を「うなずく」という
行動に絞って指導していこう。



指導目標

「顔を向けて人の話を聞く」

ベースライン（支援前）

【記録の対象とした行動】

○顔を向けて話を聞く。

教員が話しているとき、

教員の方へ顔を向けていること。

【記録方法】

授業中（45分間）、顔を向けて話を聞くことができた児童を記録した。

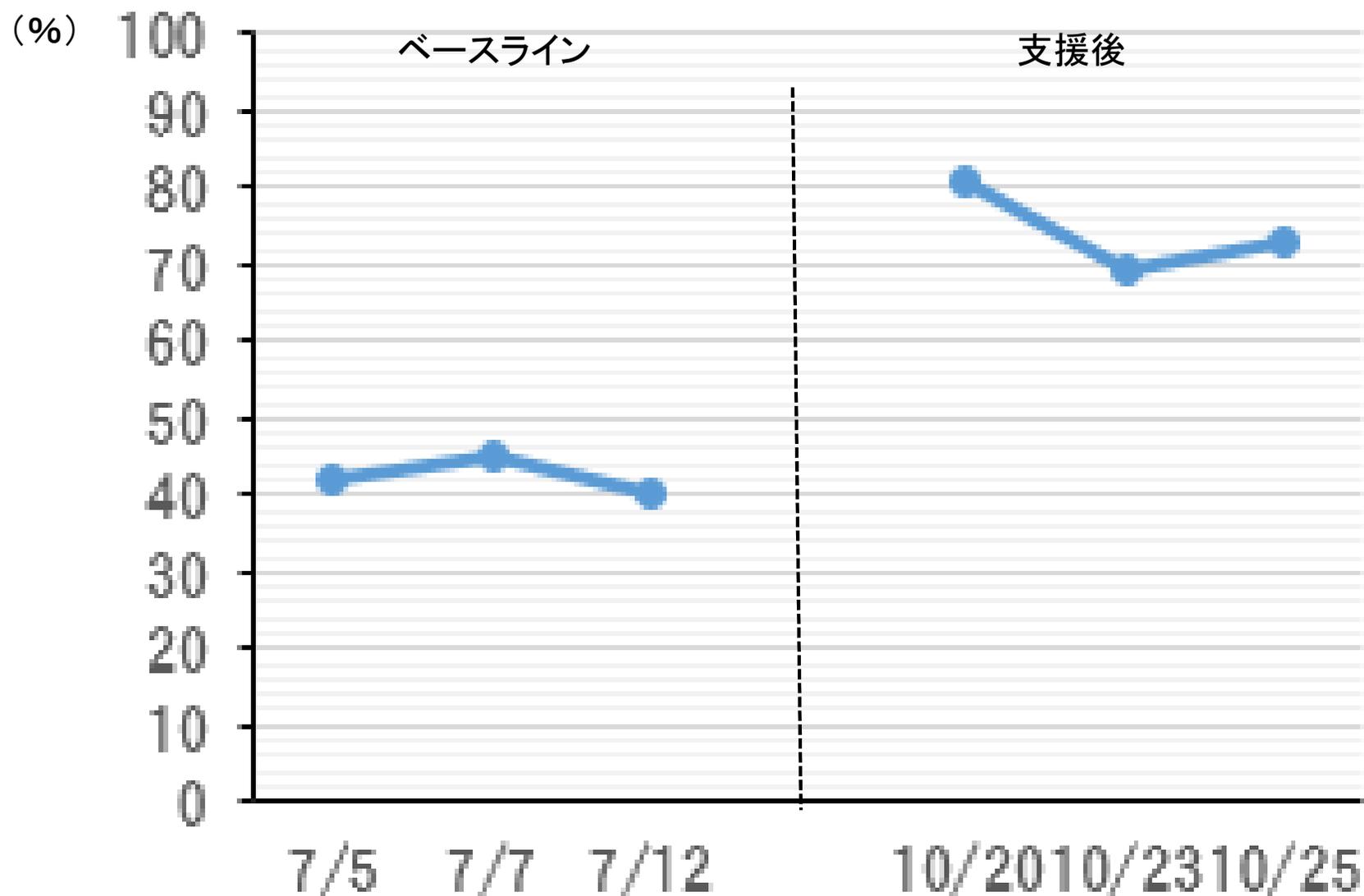
支援方法

- ①「聞き方名人」に挑戦する。
- ②「話します」と注意を引きつける。
- ③教員の方へ顔を向けた児童には
フィードバックを行う。

「〇〇さん、聞く姿勢がとれました」
「聞く姿勢で聞いてくれると、
気持ちよく話せます」

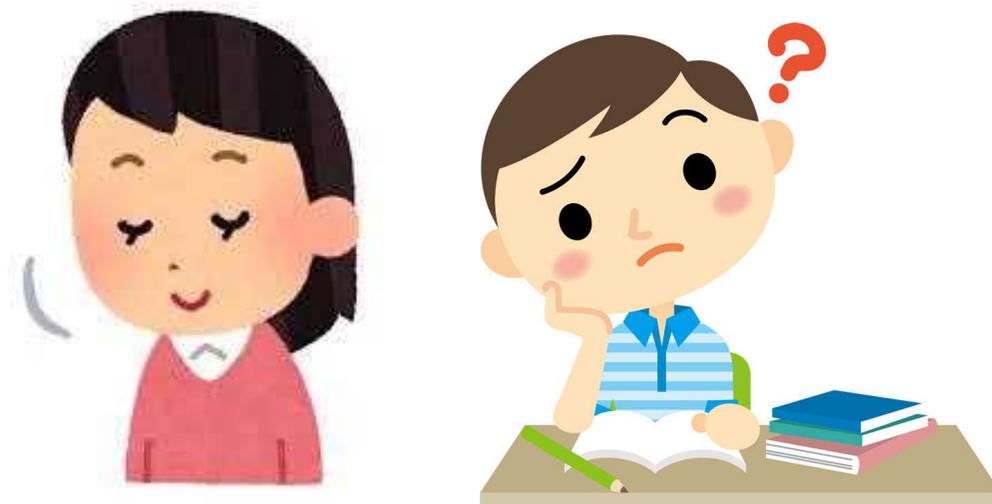
結果

顔を向けて教員の話聞いた児童の割合



指導目標

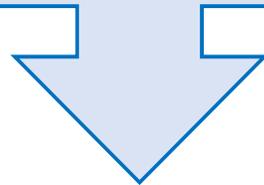
「顔を向けて，人の話をうなずきながら
聞くことができる」



支援方法

さらに細やかな支援が必要な
児童への支援

学年団で実態を共通理解し、
担任が個別に声をかけた。



「うなずく」行動が見られるようになった。
日頃の行動にも変化が生まれた。

支援方法

さらに細やかな支援が必要な
児童への支援

- 個別に目標設定を行う

授業後の「姿勢」の声が聞こえると、
手を膝において、前を向くことができる。

- 目標行動ができたとき、先生がシールを
渡し、ほめる。



1週間連続目標を達成した。
授業の積極的な参加が見られた。

実施後の児童の変化（観察）

- 授業内容と関係ないおしゃべりや手遊びが減った。
- 作業への取りかかりが早くなった。
- お互いに助け合おうとする
温かい雰囲気が生まれた。
- 児童たちの不安な様子が減った。

安定した自己肯定感の実現

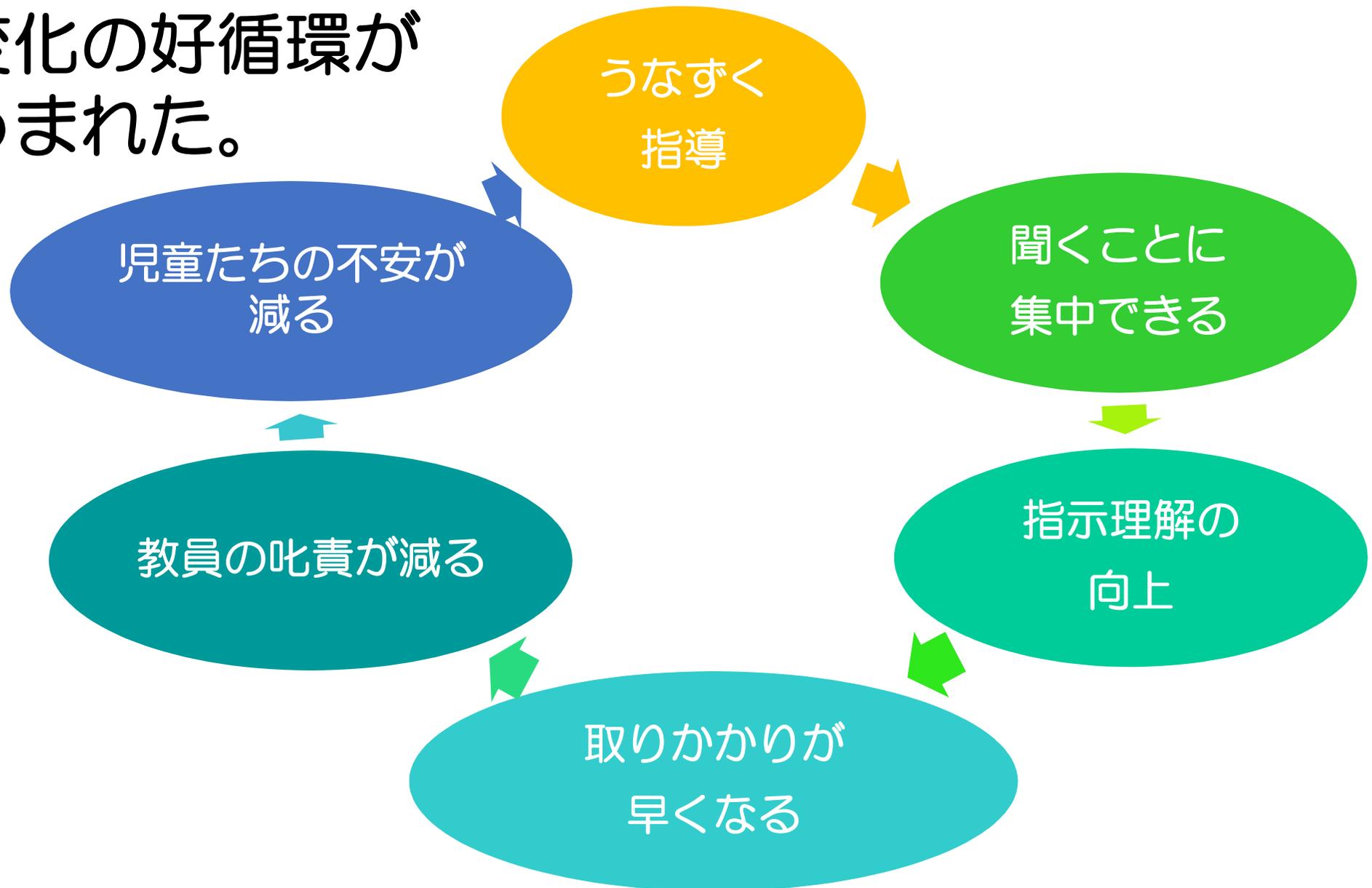
教員の変化

- 聞く活動と、その他の行動のめりはりをつける。
- 短く、簡潔に話す。
- 児童の反応を見ながら話す。
- フィードバックの仕方を工夫する。
- 目立たないが、決められた行動が取れている児童に目を向ける。

ポジティブな行動支援の大切さを実感

取り組みを振り返って

変化の好循環が
うまれた。



ここが成功のポイント



- 学年全体で取り組むことで、一緒に頑張っているという一体感が生まれた。
- より細かな支援が必要な児童について、個別的な配慮を行い、学年の流れに乗ることができた。
- 同時進行していた学校規模のポジティブ行動支援の取り組みによって般化場面が増え、さらに行動の定着が図られた。